

パブリックスペース・デザインガイドライン

- 1 ランドスケープ
- 2 植栽
- 3 サイン
- 4 光環境
- 5 アート
- 6 ファニチャー
- 7 色彩
- 8 **素材**

LANDSCAPE  
GREEN  
SIGN  
LIGHTING  
ART  
FURNITURE  
COLORING  
**MATERIAL**

## 1) コンセプト

『素材』は、『色彩』とともに、新キャンパスの景観やイメージの形成に大きな役割を果たす。また、特に壁面、舗装などは面積的にも大きな割合を占めるものであることから、地域の景観や環境等への配慮も重要な視点となる。  
デザイン・マニュアルにおいては、以下のコンセプトに基づいて新キャンパスにおける『素材』のあり方を示す。

### 周辺景観や構成要素との調和

素材そのものの色や質感を活かすとともに、パブリックスペースを構成する要素間の色彩や材料構成との調和を図る。  
キャンパス・モール、グリーン・コリドー等のリニアな空間においては、素材によって一連の空間としての統一感を形成するとともに空間サインとしての活用を図る。

### 九大のイメージを集束させる

現キャンパスに共通する色彩や素材の活用による空間イメージの継承を図る。  
キャンパス全体に素材としての統一感を持たせるとともに、ゾーン(部局)ごとにトーンの変化を与えるなど、それぞれの特徴づけについて考慮する。

### 利用者への配慮

動線や入り口を明示する素材を採用する。  
日光の反射をやわらげる素材を採用する。  
足で踏んだ時の感触を考慮して素材を採用する。

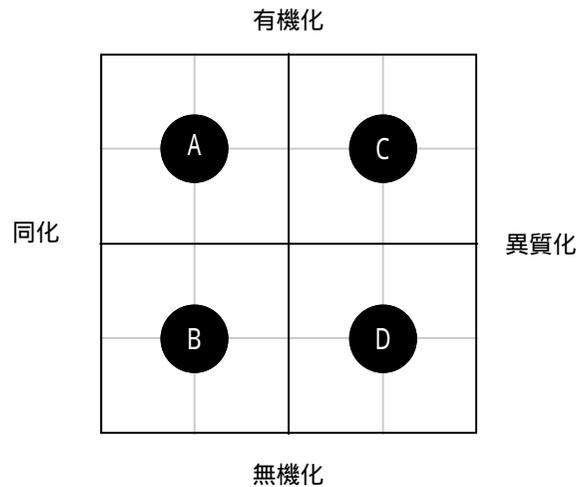
### 環境への配慮

エイジングを考慮した耐用年数の長い素材を採用する。  
再生素材・透水性素材など、グリーン購入法に係る「環境物品等」を優先的に使用する。  
小動物の移動などの支障とならない構造・素材を採用する。

### 維持管理への配慮

将来の維持管理負担の軽減を図るため、できるだけメンテナンスの不要な素材を採用する。  
構造物自体の補修や更新の容易な構造・デザインを採用するとともに、周辺の緑地・植栽等の維持管理のしやすさにも配慮した構造を検討する。

2) 空間に対する素材選定の考え方



素材選定のためのマトリクスを左図に示す。このマトリクスは、以下の四つの項目から構成される。

【縦軸】

- ・有機化の方向で、自然を生かす
- ・無機化の方向で、都市化を目指す

【横軸】

- ・同化の方向で、風景に対して違和感なく同調させる
- ・異質化の方向で、風景に対して目立たせる

縦軸・横軸のマトリクスでは、A:「同化・有機化型」、B:「同化・無機化型」、C:「異質化・有機化型」、D:「異質化・無機化型」の典型的な4つのタイプがエリアで示される。

パブリック・スペースにおける素材の選定にあたっては、外壁材、舗装材などの面的に使用される素材については、周辺環境や景観への同化(類似型)を図ることを基本とし、対象空間の位置づけやグレード、想定されるアクティビティや利用密度等を考慮して決定する。

また、サイン、照明、ファニチャー等の施設においては、それぞれの利用形態・機能に見合った存在感や、耐久性・構造上の適性等を考慮した素材の選定を行う。

タイプ	素材のイメージ	対象空間との対応	施設との対応
A: 同化・有機化型	周辺環境・景観に違和感のない(なじみやすい)素材を選択 木材、自然石		
B: 同化・無機化型	石材、タイル(土系)、れんが コンクリート(化粧平板)、アスファルト ガラス、金属		
C: 異質化・有機化型	空間の特性に合わせて素材を選択 木材、自然石		
D: 異質化・無機化型	施設としての存在感に加え、耐久性・耐候性のある素材を選択 石材、ガラス、金属		

### 3) 素材の検討

#### 外壁材

施設や屋外構築物などの外壁材は、年月を経ても美しさを保ち、味わいを増していく素材を採用することを基本とする。歩行者に接する低層部の外装は自然に近い素材とし、スカイラインを形成する建物頂部は空を意識し、周辺の見え方に配慮した素材を選定するなど、自然環境を考慮した材料の選定を行う。

キャンパスモール等のオープンスペースとそれに連続する建築空間は、相互に関連した色彩の一体感と調和を保つように配慮する。また、色彩と素材が相まってキャンパスに親しみやすい表情と風格を与えるように配慮する。

日光の反射をやわらげる素材を使用することを基本とする。

外壁材や舗装材の素材・テクスチャー・パターン等に変化を与えることにより、施設入り口部分を認識できるように配慮する。

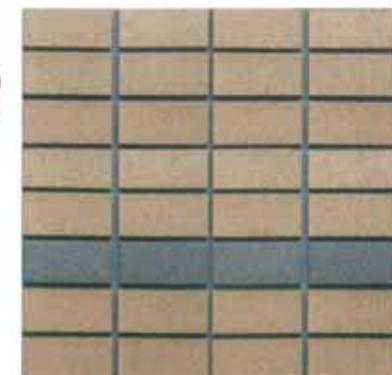
外壁のイメージ: 研究教育棟 ・ 南面



	外壁材	
	考え方	素材例
キャンパス・モール	周辺との調和を図る ・素材 ・色調 ・目地のデザイン エイジングを考慮する 素材感を活かし、表情を持った仕上げとする	・タイル ・自然石 ・金属(部分) ・ガラス(部分)
キャンパス・コモン		
グリーン・コリドー		

T-11

タイル1 (サンド色)  
45×95・PC版打込み



T-12

T-13

タイル3 (緑系)  
45×95・PC版打込み



T-14/24

タイル4 (レンガ色)  
90×190  
T-14: PC版打込み  
T-24: あと貼り



外壁材の例: 研究教育棟

舗装材

外壁材と同様、年月を経ても美しさを保ち、味わいを増していく素材を採用することを基本とする。  
 その機能上、パブリックスペースの中でも大きな面積を占めるものであることから、建築の外壁材等とのテクスチャーや色彩の調和に配慮する。また、経済性についても配慮が求められる。  
 環境面での配慮として、特に大面積に対して用いる場合には、透水性または保水性のある素材を使用することを基本とする。  
 日光の反射をやわらげる素材を使用することを基本とする。  
 施設入り口部分を認識できるように配慮する。  
 外壁材や舗装材の素材・テクスチャー・パターン等に変化を与えることにより、施設入り口部分等の認識を容易にする。  
 舗装材(素材・パターン)の変化により、動線の方向性や分岐を明示する。

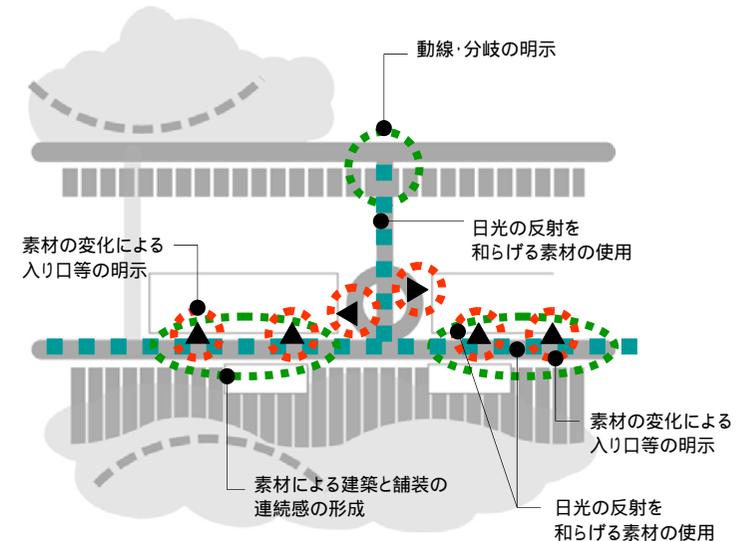
	舗装材	
	考え方	素材例
キャンパス・モール	周辺との調和を図る ・素材 ・色調	・れんが ・透水平板 ・木(枕木) ・石材
キャンパス・コモン	・目地のデザイン 透水性・保水性素材の使用	・透水性AS 【駐車場】
グリーン・コリドー	素材の色や質感を活かす	・芝舗装
未来のポテンシャル軸	周辺景観・環境との調和を図る(特に色彩)	【歩道部】 ・透水平板 ・透水性AS 【駐車場】
幹線道路	透水性・保水性素材の使用	・芝舗装
ネイチャー・トレイル	原則として舗装しない	
保全緑地		

舗装材の例: キャンパスモール(研究教育棟 ・ )



舗装のイメージ

: キャンパスモール(研究教育棟 ・ 南側)



小構造物

擁壁等については、素材感を活かしたシンプルな仕上げによるとともに、地形や植栽等によってその「見え掛かり」をできるだけ小さく抑えるものとする。

キャンパス・モール、キャンパス・コモン、グリーン・コリドーにおける階段については、歩行者の安全性に配慮し、舗装材との色調や明度の差を大きくする。

構造物端部の処理にあたっては、自然の生態系の連続性を確保できるものとするとともに、維持管理等の支障とならない形態のものとする。

	小構造物	
	考え方	素材例
キャンパス・モール	【擁壁・袖壁等】 素材感をシンプルに活かす 植栽や地形づくりの工夫による「見え掛かり」の最小化	【擁壁・袖壁等】 ・コンクリート打ち放し ・石材
キャンパス・コモン		
グリーン・コリドー		
未来のポテンシャル軸	【階段】 視認性の向上 ・一般部舗装材との色調・明度等の変化	【階段】 ・れんが ・透水平板 ・石材
幹線道路		
ネイチャー・トレイル	【階段など】 自然になじむ素材の使用	・石材 ・木(丸太)、再生材など
保全緑地		



平板と木材(デッキ)の組み合わせ例



平板と壁の組み合わせ例

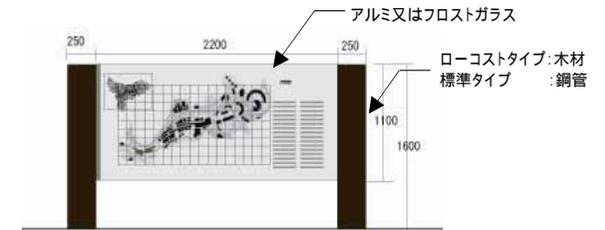


縁石のない通路

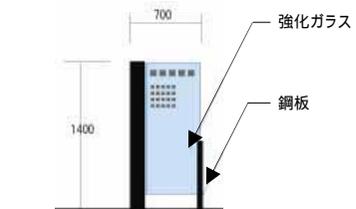
施設(サイン・照明・ファニチャーなど)

周辺環境との調和を図り、違和感のない素材を選定する。  
現キャンパスのイメージを活かした素材や意匠の活用を検討する。

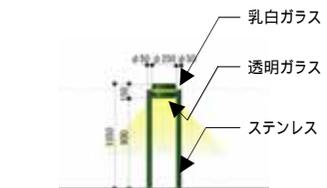
サイン・照明・ファニチャー等の施設については、機能に応じた存在感が求められることから、周辺施設や景観との調和を図りつつ存在感のある素材及び色彩の選定を行う。  
耐久性・耐候性の高い素材を選定し、LCCの縮減を図る。特にサインについては、移転の進捗に伴う情報更新等に対応可能な表示手法・素材を検討・採用する。



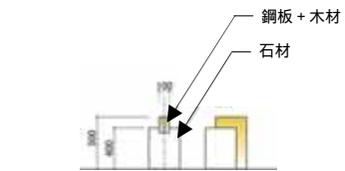
案内サイン



記名サイン



ガーデンライト



車止め

	施設(サイン・照明・ファニチャーなど)	
	考え方	素材例
キャンパス・モール	周辺建築との調和を図る ・共通または適合する素材の使用  耐久性・耐候性のある素材の使用	・金属 ・ガラス ・石材 ・木(再生材含む)
キャンパス・コモン		
グリーン・コリドー		
未来のポテンシャル軸		
幹線道路		
ネイチャー・トレイル	【サイン等】 自然になじむ、違和感のない素材の使用 耐久性・耐候性のある素材の使用	・金属 ・石材 ・木(再生材含む)
保全緑地		

#### 4) 素材選定の事例 ～ 研究教育棟 ・ における外装材の検討事例

##### 検討の要素及び項目

「色」と「素材」のテクスチャーを併せて検討  
年月が経っても美しさを保ち、趣を増す「色」「素材」の選定  
新キャンパスの位置する元岡地区の豊かな自然(山の土、緑、空)と調和した「色」「素材」の選定

##### 素材選定の経緯

###### 【中間部柱型・腰壁】

基調となる南面中層部のアースカラータイルについて、元岡の緑、山の土の色に合うカラー、テクスチャーの素材を複数提案  
現地において壁面方位を合わせ、周囲との調和、他の部位とのコントラスト等を確認して決定

###### 【3層構成】

中層部のアースカラーを基準として選定  
ランドスケープと一体となる低層部は、より山の土色に近いアースカラーの素材を選定  
スカイラインを形成する上層部は、空の色を意識した色彩・素材を選定

###### 【壁面の分節】

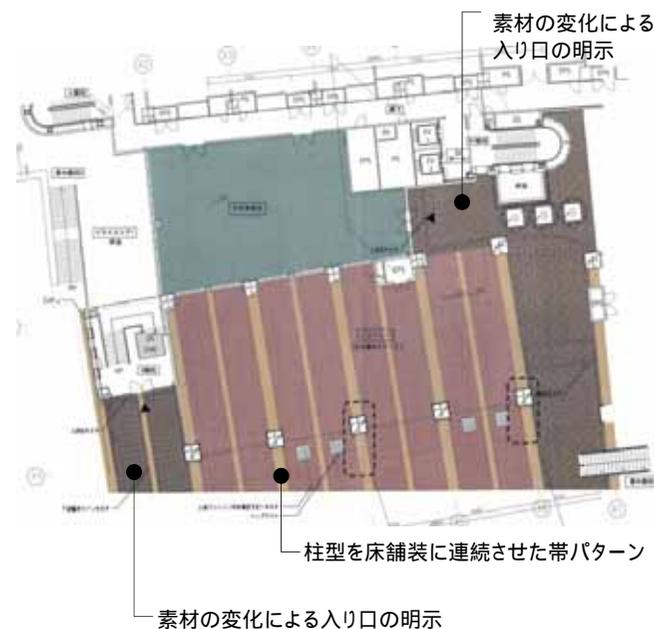
リフレッシュスペースの外装色を、透明感のあるガラスとシルバーメタリック(塗装)で構成することにより、長大壁面のボリュームを分節

###### 【低層部インテリア】

低層部パブリックゾーンの床材について、外部(キャンパス・モール)との連続性や外装との関連性に配慮  
建築南側外装の柱型を床舗装にも連続させた帯パターンの形成  
建物の分節点ともなる入り口部分では、床舗装に変化を付けることで入り口を明示し、建物の案内性を向上  
エントランスでは、玄関にふさわしい落ち着いたディグニティを感じる石の床と木の壁で構成  
学生の集まるホールの床では、元岡の土を含んで焼成された土色の肌合いの柔らかなタイルを提案



素材・舗装パターンによる屋内外の連続的な空間の形成



素材の変化による入り口の明示